

## 研修Ⅱ 「郡市による実践交流」高松支部

### 「読む力を深める思考ツールの考察」

～『走れ』（東京書籍4上）の実践を使って～

#### 1 付けたい力とツール

・場面と場面を関係付けて読む力  
・人物と人物を関係付けて読む力

児童の実態  
教師の願い

『リンクウインドウ』（視覚的に場面と人物をつなぐことのできるツール）

「叙述から考えた気持ちを吹き出しに書く」ことを中心に、登場人物（のぶよ、けんじ、母親）ごとにまとめた用紙（帯）が動いて、各場面の関係付く心情を視覚的につなぎやすくするための教具

#### 2 授業の実際

は  
想

- 第一次・・・読みの視点と学習の見通しをもつ。  
物語の設定（時・場・登場人物・あらすじ）を確認する。
- 第二次・・・物語の設定、展開、山場、結末、それぞれの場面で、中心となる人物どのように描かれ、どのような気持ちであったか、また、その変化を像して読む。
  - ⇒ 「リンクウインドウ」を操作しながら、叙述を基に気持ちを想像して書き込む。人物の気持ちを考える時に、その手がかりとなる場面にウインドウを合わせること、考えをふくらませる。
  - ⇒ グループで友だちと交流。自分の考えを表し、友だちの意見もしっかり聞く活動を通して、お互いを認め合い自尊感情を向上させる。
  - ⇒ 話し合いで出された言葉から、感想文に入れたい言葉を選んで書き込む。
- 第三次・・・第二次で書きためた付箋を使って、感想文にまとめる。

#### 3 「リンクウインドウ」を使ったことによる効果

- 自分で場面や人物をつないで考えることが苦手な子どもも、「リンクウインドウ」を使うことで場面と人物をつなぎ、考えをつくることができた。
- 話し合いの場でも、場面と場面をつないで考えたことを発言できていた。
- 言葉や文章で表現することが苦手な子どもも、単語レベルで表現できるので、抵抗感が少ない。
- 「関係付けて読む力」「情報を整理・集約する力」「比較思考する力」を付けることができ、思考力を育てることができる。→「読みのスキル」が身に付く。
- 子どもが操作しながら何度でも使え、楽しんで取り組むことができる。
- 「リンクウインドウ」は固定した形ではなく、学習内容に応じてアレンジできる汎用性がある。
- 付箋で生じるような戸惑いや混乱が少なく、横に動かす単純な操作によりどの子どもにとっても活用しやすかった。